www.kyowa-cycle.co.jp

電動アシスト自転車　取扱説明書

品番 VB26B
LB20B
FB20B
MB20A
MB26A

このたびは、製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

■取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。

■保証書は、お買い上げ日・販売店名などの記入をし、取扱説明書と一緒に保管してください。

■製品を他人に譲渡される場合は、取扱説明書を一緒にお渡しください。

■お子様がお使いになる場合は、保護者の方がこの取扱説明書を必ずお読みいただき、正しい乗り方をご指導ください。

■この自転車は買い物などの日常生活用として設計されています。
新聞配達など、業務用としてご使用ならないでください。

■安全のためヘルメットの着用をお勧めします。

■万が一の事故の備え、対人・対物賠償保険に加入されることをお勧めします。

■必ず販売店で防犯登録の申請手続きを行ってください。（法令で義務付けられています）

安全上の注意

■自転車は車道通行が原則です。

・歩道と車道の区別のある場所では、自転車は車道の左端に寄って通行しましょう。

■次のような場合は歩道通行ができます。

・自転車歩道通行可の標識等で指定されている場合。
・運転者が児童、幼児、70歳以上の場合。
・車道や交通の状況からみてやむをえない場合。

■３０kgを超える荷物を積載しない。

・ただし、自転車や取扱説明書等への積載条件の記載がある場合はそちらを守ってください。

■交差点では一時停止と安全確認を

・一時停止の標識を守り、広い道に出る場合は、徐行と安全確認を。
・信号機がある場合は、信号を必ず守りましょう。

■次の様な運転はしない

・ヘッドフォンを使用しながらの運転。
・傘をさしながらの運転。
・携帯電話を使用しながらの運転。

■二人乗り、並進、飲酒運転は禁止です。

・6歳未満の子供を幼児用座席に一人乗せる場合を除き、二人乗りは禁止です。(幼児二人同乗自転車を除く)
・「並進可」の標識のある場所以外の並進は禁止です。
・飲酒運転は禁止です。

■自動車や子供に注意、安全を確認して乗りましょう。

・車の横を走る際、開くドアや人の飛び出しに注意しましょう。

■学校や公園が近くにある場合。

・子供の飛び出しに注意しましょう。

■交差点を通るとき。

・左折車に巻き込まれないように注意しましょう。

■ハブステップなどの突出物を装着しない。

・歩行者などに危害をおよぼすおそれがあります。

■夜間やトンネル内、視界の悪い時はライトを点灯しましょう。

・夜の点滅状態や無灯火での運転は交通違反です。
・暗いところではライトを点けて運転しましょう。

■リフレクターが破損したり汚れたりしたまま使用しないこと。

・事故発生のよるケガのおそれがあります。

■雨・風・雪のひどいときは乗らない。

・バランスを崩し、転倒によるケガのおそれがあります。

■巻き込みやすい物を車輪はギアの近接させて乗らない(スカートやマフラーなど)

・車輪やギアに巻き込まれ、転倒によるケガのおそれがあります。

乗る前の点検･調整

幼児用座席のご使用について

■幼児用座席なしで幼児を乗せない。

■幼児は一人しか乗せない。

■幼児用座席に幼児を乗せている時は、その場を離れない。

・不安定で自転車が横転し、幼児が落下してケガをするおそれがあります。

■幼児用座席が自転車に確実に取り付けられていることを確認し、破損変形・ガタつきなどがないようにすること。

・幼児が落下してケガをするおそれがあります。

■急ブレーキ、急ハンドルは避ける。

・転倒や衝突によるケガのおそれがあります。

■乗車および走行中は、必ず幼児にヘルメットを着用させる。

・頭部を強打した場合、大きな危害を受けるおそれがあります。

■幼児を乗せる時は必ず靴を履かせる。

・幼児がケガをするおそれがあります。

■幼児の乗せ降ろしの際は、ハンドルをまっすぐにした状態で平坦な場所に駐輪し、必ず幼児を抱いて行う。

・不安定で自転車が転倒し、幼児がケガをするおそれがあります。

■取り付け時にハンドルバーへ傷をつけるおそれがある幼児用座席は装着しない。

・ハンドルバーが損傷し、転倒によるケガのおそれがあります。

■リアキャリア取付式幼児用座席を取り付けるときは、ドレスガードも取り付ける。

・ドレスガードが装着されていない場合は、販売店にご相談ください。

■幼児用座席に幼児を座らせている場合、可動部に触れさせない。

・車輪やギアに手足を巻き込まれケガをするおそれがあります。

■定員、使用年齢範囲、体重制限を守ること。

■乗車および走行中は、必ず幼児にシートベルトを装着させ、正しい姿勢であることを確認する。

・幼児が落下してケガをするおそれがあります。

乗る前の点検･調整

積載条件について

■乗る前にリアキャリア締付部の固定を確認する。

･荷物や幼児用座席等が落下し、ケガをするおそれがあります。
･リアキャリアに緩み･ガタ等の異常が確認されたときは、販売店にご相談ください。

■荷物を積むときは、リアリフレクターが隠れないように積載する。

･事故によるケガのおそれがあります。

■積載条件から外れる荷物を積まない。

･リアキャリアやフレームが破損し、転倒によるケガのおそれがあります。

■荷物が確実に固定されていることを確認する。

･ひもやベルトが後車輪に巻き込んで、転倒によるケガのおそれがあります。

■積載条件を超えない荷物でも、通常より重い荷物を積載するときは、安全の確保できる場所で練習してから運転しましょう。

･バランスを崩したり、ブレーキの効きが悪くなり、転倒によるケガの恐れがあります。

■リアキャリアを改造してはいけません。

･部品が破損したり、外れて転倒によるケガのおそれがあります。

積載条件

最大積載質量	
バスケット	リアキャリア
3kgまで	25kgまで
前後合わせて28kgまで	
幼児用座席の質量と幼児の体重を合わせて25kgまで乗せることができます。 ただし、幼児用座席の取扱説明書に体重制限がある場合は、幼児用座席の取扱説明書に従ってください。	

最大積載質量	
バスケット	リアキャリア
バスケットに収まる大きさ	幅　:リアキャリアの幅プラス10cmまで 長さ:リアキャリアの長さプラス10cmまで 高さ:リアキャリアから30cmまで

■荷物の運搬には、バスケットおよびリアキャリア以外は使用しないでください。

■最大積載質量以上は積まないでください。劣化度合いが大きくなったり、場合によってはバスケット、リアキャリアフレームなどが破損するおそれがあります。

■容量の大きいバスケットやリアキャリアに交換しても最大積載質量は同じです。

乗る前の点検･調整

■リアキャリア取付式幼児用座席を取付ける際は、乗車・運転に支障のない範囲でできるだけ前寄りに取付ける。

・幼児を乗せた状態での押し歩き時、スタンド操作時等では重心が後寄りになり、後方へ転倒して幼児がケガをするおそれがあります。
また、前寄りに取り付けすぎると、ペダルをこぐ際に幼児用座席に足が当たり、バランスを崩して転倒によるケガのおそれがあります。

・ハイバック式幼児用座席では通常タイプに比べ、特に重心が後寄りになりますので注意してください。

■幼児を乗せた状態での押し歩き、スタンド操作時等の場合はハンドルをしっかり押さえる。

・幼児を乗せた状態での押し歩き時、スタンド操作時等では重心が後寄りとなり、後方へ転倒して幼児がケガをするおそれがあります。

■幼児が、幼児用座席の足乗せ部分を踏み台にして乗り降りしないようにする。

■幼児が足乗せ部の上に立ち上がらないようにする。

・足乗せ部が変形･破損したり自転車が倒れたりして、幼児がケガをするおそれがあります。

■この自転車は、幼児二人同乗用自転車ではありません。ハンドル部、リアキャリアに市販の幼児用座席を取付けることができますが、一度に乗せることができるのは幼児一人だけです。

■取り付けが可能な幼児用座席の種類は以下の通りです。

・ハンドル取付式：年齢1歳以上、4歳未満、体重15Kg以下で身長100cm以下の幼児が使用する幼児用座席（15kg以下用）
リアキャリア取付式：リアキャリアには、幼児用座席の質量と幼児の体重を合わせて25kgまで乗せることができます。ただし、幼児用座席の取扱説明書に体重制限がある場合は、それに従ってください。

・ハンドルに幼児用座席を取付けた場合、前方および下方の視界が低下するおそれがあります。
・幼児用座席はSGマークが付いた物をお勧めいたします。
・幼児用座席の組付けは販売店にご相談ください。

乗る前の点検･調整

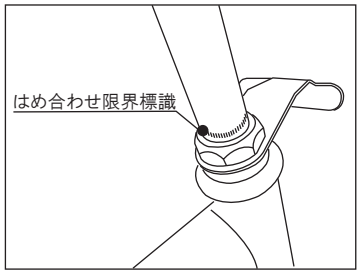
乗る前に

■まず体に合わせてください。

・各部の調整は販売店で調整を行ってください。（ハンドルの高さ、サドルの高さなど）

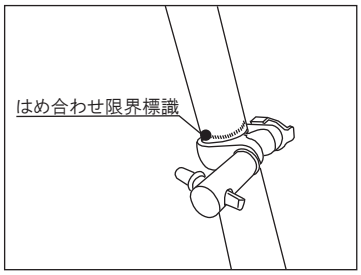
■ハンドルステムのはめ合わせ限界標識が見えるまで上げないこと。

・ハンドルステムが折れて転倒によるケガのおそれがあります。
・ハンドルの高さ調整は、販売店にご相談ください。



■シートポストのはめ合わせ限界標識が見えるまで上げないこと。

・シートポストが折れて転倒によるケガのおそれがあります。



■各部にガタやゆるみ、変形・ひび割れ等があるときは乗らない。

・ひび割れや変形を見つけたら、すぐに乗るのをやめて販売店で点検･交換をしてください。
・フロントフォークは衝突などの強い衝撃を受けたとき、変形することによって乗員や車体への衝撃を和らげるように設計してあります。衝突や転倒で強い衝撃が加わった後は、フロントフォークに変形やひび割れがないか点検してください。
・スポークが1本でも切れたまま使用し続けると、他のスポークに負担がかかり寿命が短くなります。
切れたスポークは直ちに交換してください。
・ハンドルを締め付けてもガタ･ゆるみがある場合は、すぐに乗るのを止めて販売店で点検をしてください。

■乗る前の点検は必ず実施すること。

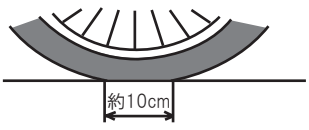
・前後ブレーキの効き、作動の点検をしてください。
・ハンドル･ハンドルステムが確実に固定されているか点検してください。
・前後車輪が確実に固定されているか点検してください。
・前後タイヤの空気圧が適正か点検してください。
・ワイヤー類がたるんでいないか確認してください。

■点検で変形や曲がり、ひび割れなどの異常があったときは乗らない。

・事故や転倒によるケガのおそれがあります。
・異常があったときは販売店にご相談ください。

■空気圧の調整(前後のタイヤ)

・適正な空気圧は、自転車に乗った状態で接地部の長さが約10cm程度が適当です。
・圧力計の付いたポンプでは300kpa～450kpa(3．0kgf/cm^2～4．5kgf/cm^2)が適正です。



・長期間使用しない場合は、空気圧は自然に減ります。
・走行前にタイヤに異物が刺さってないか点検してください。パンクやタイヤ･リムを損傷させる原因になります。
・タイヤの空気圧は300kpa(3．0kgf/cm^2)未満では使用しないでください。タイヤのひび割れ、偏摩耗やパンクの原因になります。
・ガソリン、有機溶剤、油類が付着したときはすぐに拭き取ってください。

バッテリーについて

■バッテリーの種類

・Kyowaのバッテリーはリチウムイオンバッテリーを採用しています。
・このバッテリーはメモリー効果がなく、継ぎ足し充電が可能です。

■バッテリーの交換・廃棄

・お買い求めの販売店にご相談ください。

■交換時期の目安

・バッテリーは充放電を繰り返すと徐々に能力は低下し、走行距離が短くなります。
目安として、350～450回の充放電で新品状態の約半分になり、使い方によっては交換が必要になります。
・1回の充電で、走行距離が著しく短くなった時が交換の時期です。
・冬期や寒い環境下では、1回の充電で走行できる距離が短くなります。これはバッテリーの特性上の問題で、気温が高くなると走行距離は元に戻ります。

■バッテリーの長期保管

・自転車からバッテリーを取り外し、満充電で保管してください。
周囲の温度が0℃～40℃の場所で保管してください。
・バッテリーの劣化を防ぐ為に、3ヶ月に1回は充電してください。
・長期保管後に再使用する時は、予めバッテリー残量を確認し、不足している場合は充電してください。

危険

■バッテリーは電動アシスト自転車用のバッテリーです、他の用途にご使用にならないでください。

■充電の際は専用充電器をご使用ください。

■衝撃を与えたり、分解・改造をしないでください。

■火のそばなど高温になる場所で充電・使用・保管しないでください。

■充電の際は専用充電器をご使用ください。

■バッテリーに水を入れたり、水中に投下しないでください。

・端子部から水を入れるとショートして、発熱、発火の原因となります。
・バッテリー内部に明らかに水が浸入した場合は使用を止め、販売店で点検を受けてください。

■大雨等で自転車本体にが水に浸かった場合は使用しないでください。

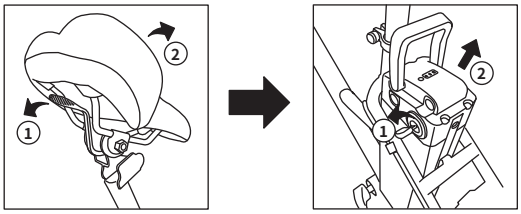
・本自転車は生活防水性能は備えてますが、大雨等によりバッテリー内部に水が入った場合は使用を止め販売店で点検を受けてください。

充電をします

■手元スイッチの電源を切ります。

・電源を切らないでバッテリーを外すと故障の原因になります。

■サドルを上げ、バッテリーロックを外しバッテリーを引き上げます。(36Vボックスタイプ)

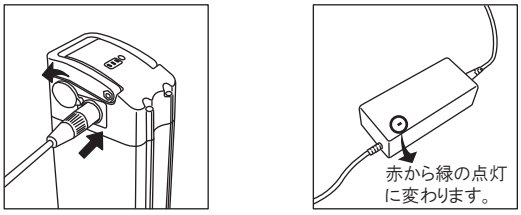


レバーを左へ倒し、サドルを上げます。

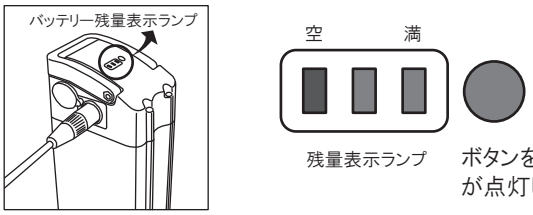
バッテリーロックキーを押しながら左へ回すとロックピンが抜けます。

■バッテリーと充電器を接続します。

・電源プラグをコンセントに差し込み、充電器側のプラグをバッテリーに接続します。
・充電中は充電器のランプが赤く点灯しています、充電が終わると緑に点灯します。

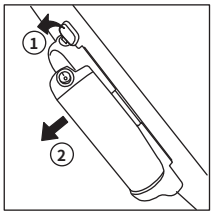


■バッテリー残量ランプを確認する。



ボタンを押すとランプが点灯します。

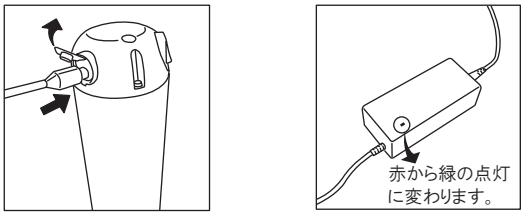
■バッテリーロックを外し、バッテリーを引き抜きます。(24Vボトルタイプ)



バッテリーロックキーを左へ回すとロックが解除されます。

■バッテリーと充電器を接続します。

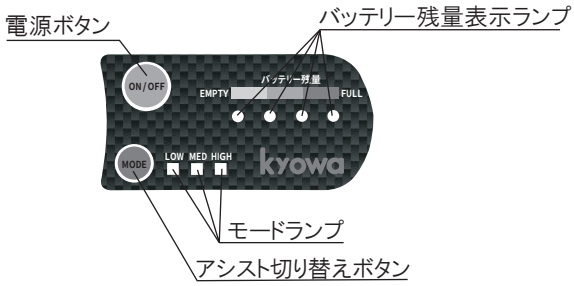
・電源プラグをコンセントに差し込み充電器側のプラグをバッテリーに接続します。



■電源が近くにある場合

・コンセント等が自転車の近くにある場合は、バッテリーを自転車から外さずに充電が可能です。

乗る際の注意

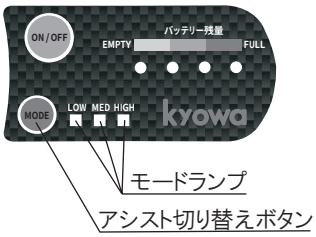


■ペダルを踏まずに電源を入れる。

・手元スイッチの電源ボタンを押し、次にアシスト切り替えボタンを押します。バッテリー残量ランプとアシストランプが点灯します。
・電源ボタンを押したときに手元スイッチのバッテリー残量ランプが点灯しない場合は、バッテリーの充電や、固定が確実にできているかを確認してください。
・ハンドルをしっかり握ってから、前後左右の安全を確認し、ペダルを踏んで発進します。(電動アシストが働きます)
・慣れるまでは、踏み始めおよび坂道を上がり終えた直後のアシスト力に注意してください。
・土踏まずやかかとでペダルをこがないでください。
・走行途中では電源を入れないでください。
・停車中は、前後ブレーキをかけた状態にし、ペダルに足を乗せないでください。

アシストモードの切り替えかた

■アシストの切り替えは電源が入っていればアシスト切り替えボタンを押すだけで切り替えができます。(モードランプが点灯します)



MODE設定	走行条件
LOW	平　地
MED	上り坂
HIGH	急な上り坂

■けんけん乗りをしない。

・けんけん乗りとは、片足でペダルをこぎながら助走し、反動をつけてサドルのまたがる乗り方です。
・必ずサドルにまたがって発進してください。転倒してケガをするおそれがあります。

■ブレーキのかけかた

・先に後ブレーキをかけてから前ブレーキをかける。

■雨天時や下り坂ではスピードを出さない。

・制動距離が長くなり、スリップしやすいため、衝突や転倒によるケガのおそれがあります。

■前ブレーキだけ強くかけない。

・車輪がロックし、転倒してケガのおそれがあります。

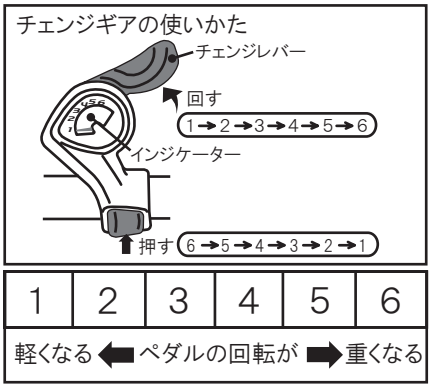
変速のしかた

■一度に何段も変速しない。

・一気に変速するとショックが大きく、転倒によるケガのおそれがあります。
1段づつ変速してください。

■ペダルを踏み込みながら変速しない。

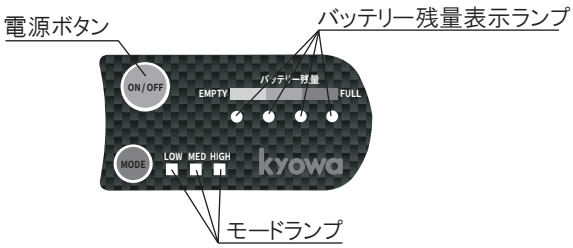
・変速操作に対し、実際のギアの切り替えが遅れ、バランスを崩し転倒によるケガのおそれがあります。



乗ったあとの注意

■自転車から降りる前に手元スイッチの電源を切る。

・手元スイッチにある電源ボタンを押して電源を切る。
・バッテリー残量表示ランプとモードランプが消灯する。



■駐輪する。

・ブレーキを握ったまま、サドルから降りる。
・スタンドを立て、スタンドロックをかける。

■決められた場所に駐輪してください。

・駐輪するときは、他人に迷惑にならないよう決められた場所に停めましょう。
・盗難防止のため、必ず鍵をかけましょう。

■自転車放置禁止

・自転車の放置は、他人に迷惑をかけるばかりではなく、環境悪化の原因になります。

保管・廃棄

■保管場所

・安定のよいところ。
・風通しがよく、湿気の少ないところ。
・雨つゆや直射日光が当たりにくいところ。

■廃棄するとき

・自転車を廃棄するときは、お住まいの地域のルールに従ってください。
・使用済みの充電式バッテリーは、廃棄せず販売店にお持込いただくか、リサイクル協力店にご相談ください。
（資源有効利用促進法に基づき、貴重な資源を守りましょう）

定期点検

■定期点検は、必ず実施すること。

・異常や故障の発見がおくれ事故発生によるケガのおそれがあります。
・いつまでも安全にお乗りいただくために、ご使用後初めての初回(2ヶ月以内)点検と、6ヶ月毎の定期点検をお願いします。

■部品の交換は次の基準で実施する。

・ブレーキワイヤー、変速ワイヤーは異常がなくても2年に1回は交換する。
・タイヤは接地面(トレッド)の溝がなくなる前に交換する。
・ブレーキブロックは、溝の残りが1mmになる前に交換する。
・ブレーキブロックは、リムに合った純正ブレーキブロックに交換する。
・ブレーキが効かなくなったり、スリップのため転倒によるケガのおそれがあります。

■初回(２ヶ月以内)の点検と整備

・お買い上げ2ヶ月位のご使用で、各部にネジのゆるみが出ることがあります。
・必ずお買い求めの販売店、または修理代行店で自転車安全整備士、自転車技士(自転車組立整備士)もしくはそれと同等の技術を有する者により点検、整備をお受けください。

■２回目以降(６ヶ月毎)の点検と整備。

・安全にご愛用頂くため、必ず継続してお受けください。

お手入れ

■日常のお手入れ

・乾いた布やブラシで泥や土、ほこりを落としてください。
・洗車はしないでください。
・がんこな汚れには、台所用洗剤(中性洗剤)を薄めてご使用ください。

■湿気の多い場所や海岸沿いでのお手入れ。

・錆びやすいので、お手入れの回数を多くしてください。

■ステンレス部品

・ステンレスは錆びにくい金属ですが、使用条件や環境によって錆びることがあります。
下記の点にご注意の上ご使用ください。
・付着した鉄粉などが錆びることによってステンレス自体も錆びるおそれがありますので、お手入れを頻繁に行ってください。
・ステンレスは塩素にも弱く、錆びることがあります。塩分や塩素系の洗浄剤が付着したときは、乾いた後でも錆びが発生しますので、水を含ませた布等でしかっり拭き取ってください。

お願い

・本自転車は生活防水性能を備えていますが、駆動ユニットやバッテリー、手元スイッチには直接圧力がかかるような洗車や、水をかけながらの洗車はしないでください。駆動ユニットやバッテリー内部に水が入った場合、故障の原因となるおそれがあります。万一、駆動ユニット、バッテリーなどが水に浸かった場合は、直ちに使用を止め、販売店にご相談ください。
・長期間ご使用になるとバッテリーの取り外しが固くなる場合があります。これは車体接続端子の表面に汚れや酸化物が付着し、バッテリーとの滑りが悪くなっているためです。バッテリーの取り外しが固くなったときは、乾いた布などで車体側接続端子の汚れや酸化物を拭き取ってください。
・バッテリーケースの汚れは、水を含ませた布などで拭き取ってください。
・シンナー等の有機溶剤は使用しないでください。(塗装が剥げたり、樹脂部が浸食されます)
・サドルにはワックスをかけないでください。(座ったとき衣服が汚れたり滑ります)
・雨天走行後にはリム側面のブレーキブロック接触面の砂や泥を拭き取ってください。

定期点検

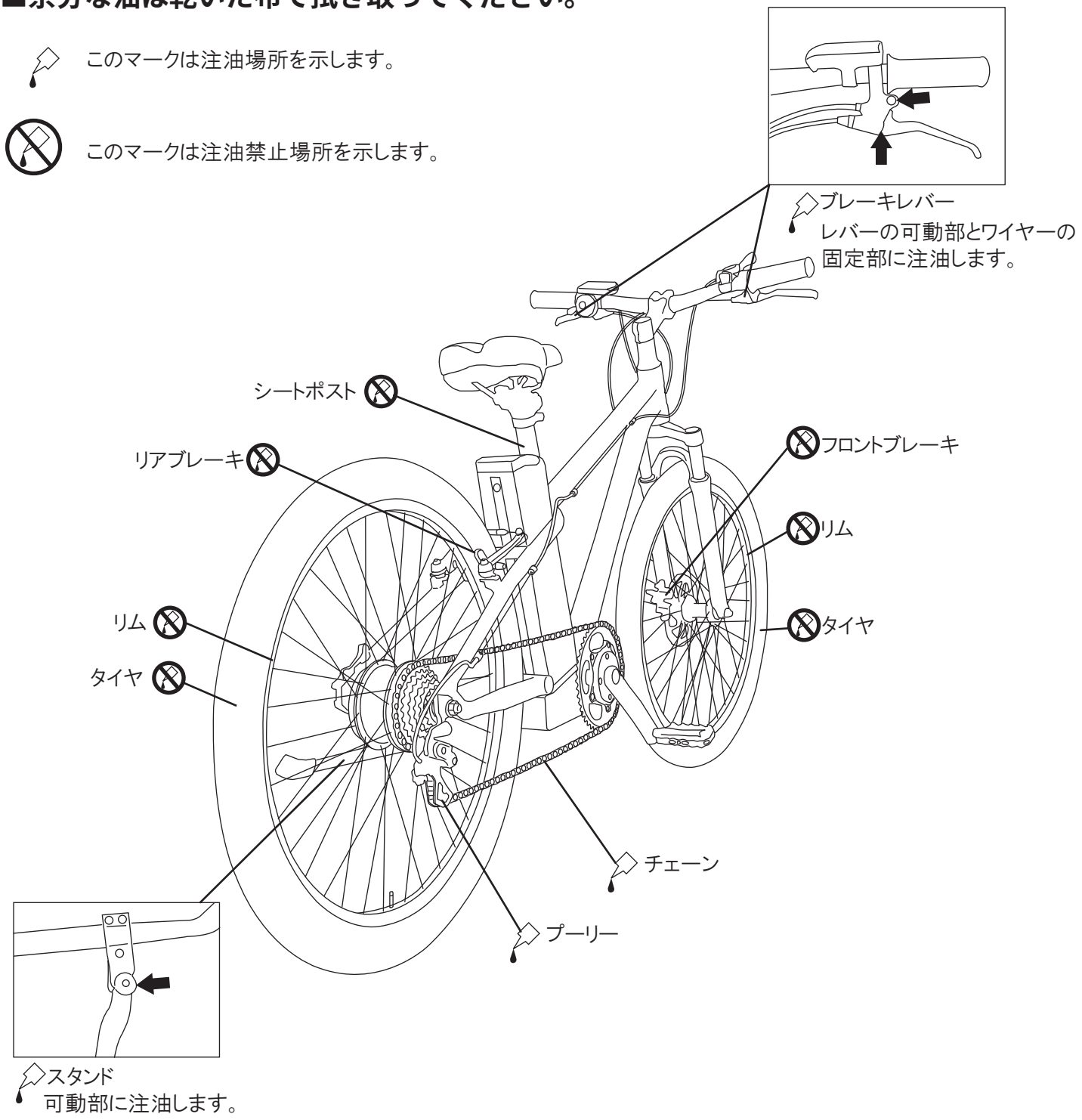
注油場所と注油禁止場所

■必ず自転車用油を使用してください。

■余分な油は乾いた布で拭き取ってください。

このマークは注油場所を示します。

このマークは注油禁止場所を示します。



点検・整備チェックリスト

✓：異常なし　A：調整・注油　△：修理　×：交換　C：掃除　—：装着されていない部品

点検箇所	点検項目	2ヶ月	6ヶ月	1年	2年	3年	4年	5年
フレーム フロントフォーク	変形・破損・ひび割れはないか							
	ヘッド・ハンガー小物にガタや摩耗はないか							
ハンドル	固定は確実か、高さ、ハンドルステムの挿入量は適正か							
	変形・破損はないか、軽く回転するか							
泥よけ	変形、取付は適正か							
キャリア	変形・ガタ・破損はないか							
車輪	固定は確実か、フレーム・フロントフォークに接触していないか							
タイヤ	切傷、摩耗はないか、空気圧は適正か							
リム	変形、振れはないか							
スポーク	ゆるみ、折れ曲がり、破損はないか							
ハブ	ハブナットのゆるみ、玉押しのガタはないか							
ギアクランク	ギア板の振れ、ひび入り、曲がり、ガタはないか、締付は十分か							
ペダル	固定は確実か、取付部にバリはないか							
	軸の固定は正常か、変形、かしめ、ネジのゆるみ、ガタ破損はないか							
ブレーキ	効き具合は適正か							
	レバーの引き代に余裕はあるか、ワイヤー類に錆やほつれはないか							
	ブレーキゴム類(ブレーキブロック、パッド、ライニング)の減りはないか							
変速機	作動は確実か							
チェーン	油切れ、たるみはないか、ギアとの噛み合わせは適正か							
サドル	固定は確実か、高さ、シートポストの挿入量は適正か							
	取付位置、ガタ、破損はないか							
ライト	点灯、照射は正常か、破損はないか、コード切れはないか							
リフレクター	汚れ・ガタ・破損はないか							
スタンド	作動は正常か、ガタ・変形・破損はないか							
ベル・ブザー	作動は正常か、ガタ・変形・ゆるみはないか、よく鳴るか							
錠	作動は正常か、変形・ゆるみはないか							
その他	各部のネジのゆるみ、破損はないか							
注油箇所	チェーン・ワイヤー・変速機・ブレーキレバー・スタンドの支点							
実施店　　実施者氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿	実施日	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／	年 ／
保証書に書かれている品番および車体番号を転記してください 品番　　車体番号	確認印							